

季節ごとに見頃をむかえる植物

春の見どころ



バラ科サクラ属
ソメイヨシノ
Cerasus x yedoensis (Matsum.) A.V.Vassil.
開花期：3月下旬～4月上旬
言わずと知れた春の代名詞。名前の由来は、発祥地である江戸の染井村からきている。農学部棟西のソメイシノの並木は非常に美しい。



バラ科サクラ属
フゲンゾウ
Cerasus serrulata (Lindl.) G.Don
開花期：4月中旬～4月下旬
八重咲の桜。二本の雄しべが普賢菩薩の乗っている普賢象のように見えることから名がついた。花は房ごと落ちることも多いので是非見ていただきたい。

初夏の見どころ



キョウチクトウ科ティカカズラ属
ティカカズラ
Trachelospermum asiaticum (Siebold et Zucc.) Nakai
開花期：5月初旬～6月中旬
つる性常緑樹。名前の由来は藤原定家からきており、能の中でも登場する。薄黄色の花がたくさん咲く様子には圧倒される。花はジャスミンのような芳香がある。



シン科ムラサキシキブ属
ムラサキシキブ
Callicarpa japonica Thunb.
開花期：6月初旬～6月中旬
落葉低木。名前の由来は歌人紫式部という説もある。鳥取県の山にも自生している。小ぶりで上品な紫色の花をつける。

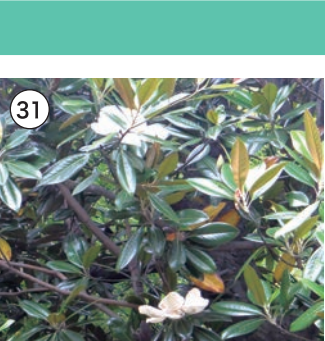
夏の見どころ



マメ科ネムノキ属
ネムノキ
Albizia julibrissin Durazz.
開花期：6月中旬～7月中旬
ピンク色の線状の花が特徴的な落葉樹。三浦古墳のネムノキは大きく、美しい樹形である。名前の由来は、羽状の葉が夜になると眠るように閉じることからきている。



ミソハギ科サルスベリ属
サルスベリ
Lagerstroemia indica L.
開花期：8月中旬～9月下旬
落葉高木。ピンク色の円錐状の花はよく目立ち華やかである。幹は、スベスベしており摸も思わす滑りそう。長い間、花をつけるため別名百日紅(ヒヤクジツコウ)とも呼ばれる。



モクレン科モクレン属
タイサンボク
Magnolia grandiflora L.
開花期：6月初旬～7月初旬
常緑高木。葉・花、ともに大きく特に花は白く綺麗で見ごたえがある。北米南部原産で、ミシシッピ州では州の花に選ばれている。



バラ科ビワ属
ビワ
Eriobotrya japonica (Thunb.) Lindl.
結実期：6月中旬～6月下旬
常緑高木。熟した黄色い実を食べられるのはもちろんだが、葉をお茶にして飲むこともできる。色もきれいでおいしい。

秋の見どころ



レンブクソウ科ガマズミ属
サンゴジュ
Viburnum odoratissimum Ker Gawl. var. *owabaki* (K.Koch) Zabel
結実期：8月下旬～9月下旬
常緑小高木。鮮やかな赤い実を多数つけ、鳥に食べてもらい種子を散布している。名前の由来は、鮮やかな赤が珊瑚のようであったから。



グミ科グミ属
アキグミ
Elaeagnus umbellata Thunb. var. *umbellata*
結実期：10月中旬～11月中旬
落葉低木。秋に実が熟することからアキグミ。1cmほどの小さな赤い実がかたまつてつき、食べられる。花は春に咲き、はじめ白色でしだいに黄色を帯びる。



イチョウ科イチョウ属
イチヨウ
Ginkgo biloba
紅葉：9月下旬～11月中旬
落葉高木。葉の形がアヒルの足に似ており中国語で“イアチアオ”と呼ぶので、そこから転じたとする説があるが、定かではない。種子は銀杏とよばれ、悪臭をはなつ。



ムクロジ科カエデ属
イロハモミジ
Acer palmatum Thunb.
紅葉：10月中旬～11月下旬
落葉高木。名前の由来は葉の裂片を「いろはにへ」と数えたことから。紅葉姿はとても美しく、秋を感じる。

ナチュラルガーデン

ナチュラルガーデンとはその土地の環境に合った植物でつくる自然風の庭のことです。植物は、主に自生種とそれをもとにした栽培種が植えられ、必要に応じて外来種も少し用いられます。また、化学肥料や農薬は使いません。ナチュラルガーデンはもとイギリスで発祥した庭造りの考え方で、同国出身の造園家ポール・スミザー氏によって日本で普及され、鳥取では2013年に開催された全国都市緑化とっとりフェアをきっかけに広まりました。



●農学部前の庭

この庭は、もともと都市緑化フェアへの出品作品として「山陰海岸沿辺の原風景」と題して、学生実習(農学基礎実習演習)で湖山池公園に作庭されたものです。フェア終了後、学内に移設・拡大されて現在の形になりました。砂浜とその後背地にある砂丘植物は、さまざまな人為的影響で絶滅の危機に瀕しています。この庭では、そうした植物のうちハマナス、ハマコウ、ハイレズ、トウテイラン、ハマベノギクなどを見ることが出来ます。



●事務局前の庭

向かって右側3分の1は、農学部と同じ山陰海岸の砂丘植物の庭です。左側3分の2は、「因伯の里庭」と題して学生実習で作庭されたもので、オミナエシ、オトコエシ、ワレモコウ、ミソハギなど民家の庭によく見られる草花が、ススキの栽培品種やヤマボウシ、ツリバナなどの雑木とともに植えられています。

いわれの樹木

鳥取キャンパス内の歴史ある木々



希望の月桂樹

新入生が正門に入って、まず目にするのがこの木。希望に胸をふくらませて闊歩してほしいという願いを込めて名付けられました。



稲葉の松

統合移転前、鳥取市岩倉の教育学部にあったものを移植。百人一首の歌にある稲葉山に生えていたと考えられる松です。



鼎の松

旧鳥取連隊の名木を昭和41年に移植。教員・学生・職員が一体となり血のつながった学園をつくるという願いが込められています。



鳥取柳

戦後間もない頃まで旧鳥取駅前にあった二本対の夫婦柳と呼ばれた老木の子供柳です。統合移転の際、移植されました。



見越の松

昭和41年の統合移転に伴い、昭和48年に鳥取市近郊から移植。正門から構内を見通す眺めも一段と良くなったことから、この名が付けられました。



湖山の五本松

昭和41年に湖山砂丘地から移植されました。当時、砂丘地に育った大樹が移植できるか疑問視されましたが、地元の熱意と大学の技術により見事に成功しました。



同窓のシイ・啓成のクス

2本の巨木は統合移転前の鳥取市吉方の農学部にあったものを移植。シイは同窓会記念会館の玄関前に、クスは学寮(啓成寮)横に植えられていました。



岩倉のヒマラヤ杉

統合移転前には岩倉の教育学部にあり、学園風景のシンボルとなっていました。下枝を大きく広げてピラミッド型の巨木に成長し、鳥取キャンパスに立っています。

鳥取大学の歩み

沿革MEMO

鳥取大学の誕生

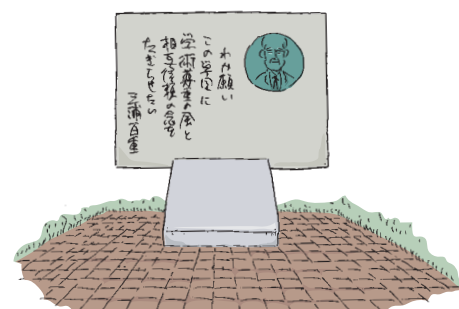
鳥取大学は、明治7年設置の小学教員伝習所を起源とする鳥取師範学校と鳥取青年師範学校、大正9年に設置された鳥取高等農学校の流れをくむ鳥取農林専門学校、及び昭和20年に設置された米子医学専門学校を前身とする米子医科大学を包括して、昭和24年に国立学校設置法による新制国立大学として、学芸学部、農学部、医学部の3学部で発足しました。昭和40年には地域の産業育成を目指し工芸学部が設置されました。なお、学芸学部は教育学部(昭和41.4改称)、教育地域科学部(昭和41.4改組)、の改組を経て平成16年4月から地域科学部として改組されました。また、平成16年4月には国立大学法人として生まれ変わりました。

鳥取キャンパスの移転

- 昭和25年8月25日 / 学芸学部は、鳥取市東町137番地から鳥取市立川町5丁目1番地(旧47部隊兵舎跡)に移転。(事務局は、昭和27年8月に移転。)
- 昭和41年8月15日 / 鳥取市立川町5丁目1番地(事務局、教育学部、工芸部、附属図書館)及び鳥取市吉方(農学部)から現在の鳥取市湖山町南4丁目101番地に統合移転。
- 昭和60年8月22日 / 教育学部附属小・中学校は、鳥取市尚徳町101番地から鳥取市湖山町南4丁目101番地に移転。

石碑・像

伝統を語り継ぐ記念碑

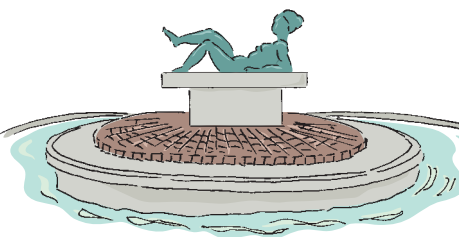
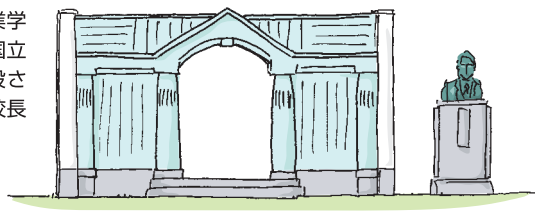


三浦百重先生退官記念顕彰碑

第3代学長の三浦先生は、鳥取市内に分散していたキャンパスを湖山に統合移転し、工芸部の設置に尽力するなど大学発展の基礎を築きました。この碑は先生と親交のあった倉吉市出身の彫刻家・早川麟一郎多摩美術大学教授が制作したものです。

鳥取高等農学校玄関と山田玄太郎先生像

農学部の前身である鳥取高等農学校は盛岡、鹿児島に次ぐ3番目の国立農学校として、大正9年に創設され、翌年、山田玄太郎先生を初代校長に迎えて開校しました。



裸婦像「洋」

湖山への統合移転並びに工芸部校舎の落成を記念し、昭和41年10月に株式会社無組合長・牧田基一氏(本県出身)から寄贈されたもので、作者は三浦百重先生退官記念顕彰碑を制作した早川麟一郎氏です。

畜魂碑

教育・研究のために犠牲となった動物並びに悪疫に倒れた家畜たちの霊魂を慰めるために建立された碑です。建立は元家畜病院長・津村教授の熱意に負うところが多くあり、昭和30年9月から着手され、翌31年3月16日に除幕式及び第一回畜魂祭が挙行されました。昭和42年春、旧吉方の構内から家畜病院に隣接した現在地に移され、毎年6月に畜魂祭が開催されています。



鳥取キャンパス

一般の方も施設をご利用できます。



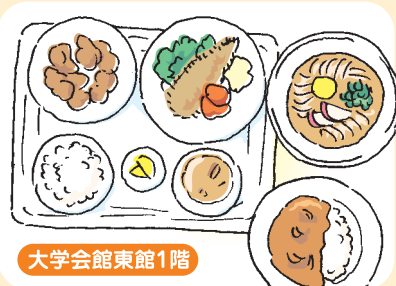
キャンパス内には、一般の方にもご利用いただける施設がいろいろ。メニュー豊富なカフェや、図書館、広報センターなど気軽にお立寄りください。

大学会館(学食・ショップ)



第1食堂「マーレ」

朝食から夕食まで充実メニュー。総業バー、サラダバーで選ぶカフェリアスタイル!
●時間 / 月～金8:00～20:30 / 土10:30～19:00
●定休 / 日曜・祝日
●席 / 336席(オープンテラスあり)



第2食堂

丼やカレーなど気軽な単品メニューや、和洋中などセットメニューが人気!
●時間 / 月～金11:30～13:30
●定休 / 土曜・日曜・祝日
●席 / 228席

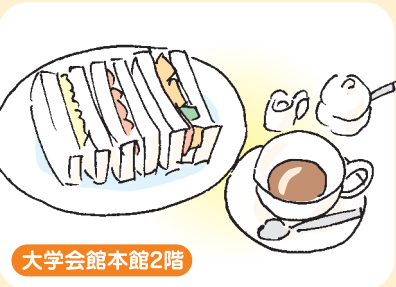


大学関係のパンフレットや広報誌など、いろいろ置いてあります。



生協ショップ

文具、書籍からパソコン用品、お菓子や飲料まで充実の品揃え。
●時間 / 月～金8:20～18:20、土10:30～14:00
●定休 / 日曜・祝日



ベーカリー・カフェ「セルリア」

朝食から夕食まで充実。季節の企画メニューも好評です。
●時間 / 月～金8:15～17:00
●定休 / 土曜・日曜・祝日
●席 / 56席(オープンテラスあり)

附属図書館



専門書以外にも、一般の小説や雑誌、新聞等もあります。

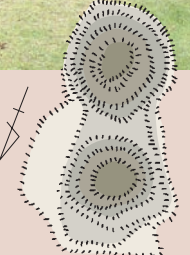
古墳

いにしへの文化を今に伝える



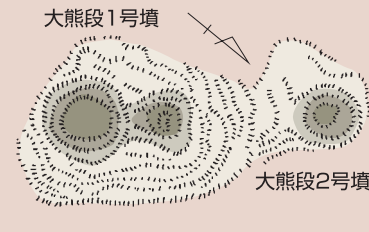
三浦古墳(別名・琵琶限1号墳)

全長約36m、大学会館側から歩いて3分程で登れます。6世紀前半築造の可能性が高く、湖山池周辺地域の有力者が6世紀になって台頭してきたことをうかがわせます。



大熊段1・2号墳

大熊段1号墳は全長50.5mの前方後円墳、2号墳は直径28mの大型円墳です。出土した円筒埴輪から5世紀後半の築造と推定されています。昭和49年に鳥取市指定史跡となりました。



大学の豆知識

学章<角輪の紋>



角輪の紋は、揚羽紋以前から鳥取藩主池田家の家紋、さらに角と輪の紋としても用いられていました。角と輪のデザインの素因は明らかではありませんが、後世になってから鳥取藩を構成する「因幡の国」と「伯耆の国」との因伯二州を表すものといわれ、幕末・明治の頃には、文武両道を表すものと言われていました。

大学の紋章としては、昭和27年に、当時の須崎幸一学生課長が佐々木高学長からの依頼を受けて考案し、学芸学部の松上茂助教授が図案化しました。そして、昭和60年の評議会で承認されました。

シンボルマークが制定されたことにより、学章は、公式行事や学位記、学生証など公式文書に使用を限定して用いることとなっています。

シンボルマーク



中央で交差する両翼は、無限(∞)の可能性を象徴するとともに、「知と実践の融合」の理念と、常に躍進していく本学を表現しています。また、両翼と尾で構成される3つの輪は、本学の教育研究の目標を示しており、イメージカラーの青と緑は地球を象徴する空と海、大地と生命などを表し、豊かな自然と共にグローバルに発展する大学を表現しています。

おさんぽコースの整備

おさんぽコース内には案内標識が24カ所設置してあります。この標識の特徴として上部に地図プレートを設置しており、道が分からなくなった際にも現在地と散策ルートを確認できるようにしています。標識の材は、すべて鳥取大学森山演習林の材を用い、文字の掘り込み、地図プレートの作成などは鳥取大学ものづくりセンターが行いました。また、標識は農学基礎実習演習で学生たちが穴を掘り、自ら設置作業を行いました。

